

令和7年度

浦庄小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く・話す・学び合う」力を定着させることで、主体的に問題解決に向かう児童を育成する。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各学年における基礎的・基本的な言語に関する知識や、計算の力が定着している。 ●上の学年に進むにつれて、学力の差が広がる傾向があり、文章の内容を正確に理解する力に課題が残る児童もいる。	・既習の漢字やローマ字の読み書きを使って、文章の内容を正確に読み取ることができる。 ・身につけた知識を、他の学習や生活の場面で活用することができる。	・練習問題に取り組む時間を確保し、継続的にミニテストを行う。 ・教科書の巻末資料や辞書を積極的に活用し、語彙を増やす。 ・板書や文章の正確な視写を指導し、助詞や漢字の使い方に慣れさせる。	なし	・ドリル学習やミニテストを定期的に行い、漢字の読み書きや計算の基礎的な力は8割程度の児童に身につけている。また、学年が上がるにつれて、日常的な場面での活用もできるようになってきている。 ・各学年でタブレットを使って、キーボード入力を取り入れ、ローマ字が身につけてきている。	・引き続き漢字や計算のミニテストを行い、基礎・基本を根気強く積み上げる。 ・辞書やタブレット、デジタル教科書を効果的に活用し、漢字の使い方や語彙の幅を広げる。 ・課題をされていて分からないところがあるときに、ノートを見て自分で振り返りができるようにノート指導や習慣づけを行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを伝えようとしている児童が多い。 ●友達の見解を聞きながら、自分の考えと比べてたり質問や反応をしたりすることに課題がある。	・理由や根拠を示しながら、自分の考えを伝えることができる。 ・友達の見解から学び、自分の考えと比較したり共感したりすることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・児童の発表に対して問い返しをしたり、他の児童にその発表に対しての考えを尋ねたりして考えを深めさせる。	なし	・自分の考えと合わせて、理由や根拠を伝えられる児童が増えてきた。 ・友達の見解を聞いて自分の意見と比較したり共感したりすることに課題が残る。班活動などで意見をすりあわせたり、折衷案を考え出したりすることが難しい。	・友達の発表や発言に対する反応を掲示し、考えながら聞くことを粘り強く指導する。 ・話し合い活動のロールプレイや進行の例を示し、折衷案を生み出す方法を実感させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や家庭学習で与えられた課題にきちんと取り組む事ができる。 ●自分に合った課題を見つけ、主体的に学習に取り組む力が十分には身につけていない。	・「浦庄スタイル」に則った聞き方話し方が定着している。 ・自分の学習を振り返り、新たな疑問や次に向けての課題をもつことができる。	・学び合う授業のための「浦庄スタイル」の定着に向けてこまめに指導していく。 ・本時のめあてを提示し、目的をもって学習に取り組めるようにする。 ・学びのまとめを提示し、できるようになった事に気づかせたり、課題をもたせたりする。	なし	・「浦庄スタイル」に則った聞き方話し方の掲示を一新し、児童に強く意識付けすることができた。 ・チャイムが鳴る前に、次の授業の準備をし、着席して授業開始を迎えられることが増えた。 ・1時間のまとめや振り返りから、新たな疑問や課題をもつことは難しい。	・「浦庄スタイル」の定着に向けて、継続的に指導し、定期的に自己チェックできるようにする。 ・教材研究を十分に行い、児童の疑問や次時への課題を中心とした授業展開を考える。